

# 掬水

きくすい

題字・佐藤重義



## 新しい時代の「知の加工力」を求めて

秋田市退職校長会 会長 伊藤 栄 二

日毎に暖かくなり、少しずつ木々も芽吹いて、心うきうきとする頃となりました。会員の皆様には、ますますご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また、本会報の発行にあたり、多大なるご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、昨年の秋の教育懇談会では、高橋一郎顧問をはじめ、多くの先輩会員の皆様とお会いし、楽しいひとときを過ごすことができました。また、現職校長先生方とは、現下の学校現場における教育課題を共有し、協議を通して課題解決のヒントを探り合ったところです。

その懇談会の祝辞の中で、中央教育事務所長の小澤進氏より学校訪問を終えての感想を伺いました。多くの学校でICTの活用が進んでいるとのことでした。

現職の頃、自分自身が授業の中で、グループに一台のパソコンを活用したり、インターネットを使った授業実践を試みたりした数十年前を思えば、「子ども一人1台端末」の急速な普及と、子どもたちがタブレットをノートや鉛筆のように駆使して学習活動に取り組む様子は、ある程度想像はできていた変化です。

しかし、所長の話の中で「生成AIを活用した授業も見られた」ということには、正直驚かされました。社会でAI（人工知能）が普及していることは知っていましたが、市内の学校現場で既に授業に取り入れられるほどに進んでいるとは予想外でした。

このような急激な時代の変化に直面し、私たち会員も現代を生きる者としてAIに関する教養を身に付けておくべきだと考え、昨年の県秋季研修大会では、元秋田県立大学教授の佐藤和人氏から「人工知能の過去、現在、近未来」と題してご講演をいただきました。先生はその中で、AI時代に最も留意すべき視点として、「得た知識を自分なりに組み替え、意味づけ、応用・創造する力、すなわち知の加工力」の重要性を指摘されました。

かつて、私たちが初めて出会った人工知能は、アニメ「鉄腕アトム」のように、意志や心をもった「科学の子」として、夢のような未来社会の象徴でした。しかし、その後のSF世界に登場するAIの多くは、状況がかなり変わっています。

例えば、『2001年宇宙の旅』のメイン・コンピュータHAL9000は、矛盾した命令に苦しみ暴走します。『ウォー・ゲーム』のジョシュアは、学習の過程で核戦争の無益さを知り、人間の愚行を教訓と認識しました。また、『エリアン』のマザーなどに登場する人工知能は、しばしば人間と敵対するものとして描かれています。これらの物語は、AIが人間の制御を超え、予期せぬ結論や行動に至る危険性を長きにわたり私たちに示唆してきました。

こうした歴史的な懸念がある一方で、学校現場でのAIの利用については、人工知能学会会長の栗原聡氏は、次のような重要な見解を述べておられます。

「この先にAIが新しいものを創造する未来が来るとしても、最終的にその価値を評価し、そこからさらに新しいものを生み出すのは人間である。AIを『道具』として使うのではなく、『パートナー』として向き合うことが重要だ。学校教育はそのパートナーと対等につき合うための思考力や人間性を育む最後の砦なのではないか。」（※）

これまでコンピュータは「道具」との認識でしたが、これからのAIは、この世と一緒に生きる「パートナー」であるとの捉えは、価値観の大転換につながるものであり、大きな感銘を受けました。栗原氏の言う「パートナーと対等につき合うための思考力」こそ、佐藤氏が指摘された「知の加工力」に他なりません。新しい時代を迎えるにあたり、私たちは、退職校長会としてこの「知の加工力」を改めて共有し、現職の先生方への支援を通して、未来を担う子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

（※）栗原聡 慶應義塾大学教授・博士（工学）『学びのチカラ 教育出版 2025・10』より

# 第30回 秋田市現職・退職校長会

## 教育懇談会

日時…十一月十五日（土） 14時  
会場…協働大町ビル 6F 千秋の間



はじめに大山裕秋田市中学校長会長と伊藤栄二秋田市退職校長会長から開会に当たったの挨拶があった。引き続き、小澤進秋田県教育庁中央教育事務所長と鈴木公平秋田市教育委員会教育次長から来賓祝辞を賜った。

その後教育懇談会が行われ、「学校現場の課題と取り組み」と「役職定年後の人生設計」を協議題にしてグループ協議が行われた。現職の校長先生方からは、今抱えている学校現場の課題、悩みについて紹介していた。退職会員からは、現職の頃の悩みや成功例、失敗例について語っていた。

懇談会終了後は、懇親会が開かれ、旧交を温めながら、情報交換で盛り上がった。

### グループ協議から

### 教育懇談会に参加して



桜中学校

山尾 有美

この度、初めて秋田市現職・退職校長会教育懇談会に参加させていただきました。ご案内をいただいた時は、あまりにうれしく、自分などが参加させていたかどうかと、正直大きなプレッシャーを感じていました。

当日、だいぶ緊張しながら会場に行ってみると、以前同職しお世話になった先生方もたくさんいらつしやり、大変懐かしい気持ちでいっぱいになりました。私のようなひよつ子校長は、大先輩方に教えていただきたいことばかりで、今悩んでいることや迷っていることをマシニングのようにぶつけ、教えを乞うことに夢中になってしまいました。それは若かったあの頃の自分の姿と微塵も変わらず、先輩方は「相変わらずだねえ（笑）」と苦笑されたことと思います。学校現場の課題と取り組みを共有するグループ協議では、特別な配慮を要する子ども多さが話題の中心となりました。特に担任以外の手がほとんどない小学校の抱える困難さは深刻で、校長先生も最前線に立って奮闘されており、本当に頭が下がる思いでした。

世の中の激しい変化に伴い、教育を取り巻く環境も大きな転換期を迎えています。学校制度の変革はそのスピードに追い付くことができずにいるように感じます。既存のシステムの中で、限られた人員で、日々増加する一途の個別対応の嵐に、現場は必死で対応しながら、悲鳴を上げています。こんな時、退職校長の先輩方が学校にいらして、「大丈夫！ ゆっくり行こうや」と大らかに微笑んでくださったら、どんなに学校現場は勇気づけられるだろう…と感じた一日でした。いつまでも先輩方を頼りにしてしまおう不甲斐ない校長ですが、これからはどうかお力をお貸しいただきますようお願いいたします。



### 今を大切に



牛島小学校

植田 雅人

新任校長として、秋田市現職・退職校長会教育懇談会に初めて参加させていただきました。私にとって、とても有意義な会でありました。前半のグループ協議では、各学校の実情について意見交換をしながら、退職された先生方から助言をいただく形で進められました。

若手教員が増加し、中堅教員が手薄となっている影響か、話題の中心は若手教員の育成についてでした。

その時印象に残っているのが、ある先生が言われた、「もう少し、若手教員の話を聞いてあげればよかった」という言葉です。私自身、若手教員の話を聞いていたようで聞いてこなかったなど改めて感じました。

こちらから指導するだけでなく、若手教員の悩みや考えもしっかりと聞き、双方のコミュニケーションを実践していこうと思いました。自分の若手時代を振り返ると、お世辞にもしっかりしていたとは言えません。今の若手教員はとてもしっかりしている方が多いと思います。それぞれ「よさ」をもっていきます。その「よさ」を自信をもって発揮できるように、励まし勇気づけていきたいと思えます。

後半の懇親会では、お世話になった諸先生方と再会し、いろいろとお話ができたことが嬉しかったです。その際にある先生から「自分のやりたいことを、やる時にしなさい」という助言をいただきました。私には、やってみたいと思うことがいくつもあります。「今の仕事に一区切りついでからやってみよう」と考えていました。

今、自分がやりたいことを後回しにせず、私生活も充実させながら、校長としての責任を果たしていきたいと思えます。

教育懇談会に参加して



秋田市退職校長会

刘田 茂

現職の校長に対して参考になることはあまり言えないが、感謝やお詫び、激励の気持ちは伝えた。そんな想いで参加した。おりしもクマの異常出沒で緊張が続く中、児童生徒、職員の安全確保のために奮闘する関係者の、並々ならぬ努力に頭が下がる。

不登校児童生徒数の増加は心配だ。コロナ禍後の増加率は鈍化しているとはいえ、全体的には増えているのだから問題は大きい。今回のグループ協議でも、改善につながった事例や学校行事だけの参加はどうかなど、様々な意見交換がなされたが、多くの場合原因は複数の要因が絡み、理由は一人ひとり異なる。だから、個に応じた予防や対応をきめ細かに進めるには、教師の能力や組織力ももちろんだが、タイムリーに対応していくための時間的余裕も必要だろう。

SNSに伴うトラブルは以前からあったが、現在は年齢規制をする国も出てきていることに驚いている。最近のペアレタルコントロールはどうなっているのだろうか。

教師の働き方改革は部分的には進んでいるようだが、学校が担うべきことがあまり減らない現状においては、校内における仕事量の個人差が生じているとの発言もあった。中学校部活動の地域移行にしても、地方はうまく進むのだろうか。いざいざ近年、教員採用試験の倍率が年々低下し、教師を目指す若者が減少していることは憂慮される。未来を担う子どもたちにとって教師は魅力的な存在、憧れの職業でなくてはならないはずだ。

ここ数年、コロナ禍、洪水、クマの出没など、予想だにできなかった状況が次々に起こっている。子どもたちへの精神的な影響もあることだろう。学校の奮闘を願うが、特に校長は健康に十分留意され、リーダーシップを発揮されることを心から祈っている。

進む学校適正配置

少子化の進展に伴い、学校の統合が進められています。令和8年4月には、戸島小学校が河辺小学校と統合となります。さらに土崎小学校と土崎南小学校が統合し、「土崎小学校」になります。令和7年11月1日には戸島小学校の閉校記念式典が、令和8年2月21日には、土崎小学校と土崎南小学校の統合記念式典が挙行されました。今春の閉校、統合に向けた、特色ある素晴らしい取組を、ご紹介していただきました。



戸島小学校

鈴木 高志

秋田市南部、清流岩見川が流れる自然豊かな河辺戸島の地にある本校は、明治八年に開校し、今年、創立百五十周年を迎える歴史と伝統を誇る小学校です。

地域との結び付きが深い本校では、これまで、全校児童での田植えや稲刈りの農作業体験、岩見川でのサクラムス稚魚放流やバードウォッチング、満蔵寺や近隣史跡・施設の見学訪問など、地域に根差した学習や、森林学習館での環境学習、国際教養大学の学生との交流による外国語学習など時代に応じた特色ある教育活動を行ってきました。



最後の一年となる今年度は、子どもたちが考えた「ありがとう戸島小学校」の歴史に感謝し、なかくよく笑顔で輝く「のテーマ」のもと、保護者や地域の方々と共に、本校の特色である活動と記念事業や心に残る思い出プロジェクトに取り組みました。

春には、借り物競争やパン食い競争などの懐かしい種目を復活させた「記念大運動会」、夏には、「親子レクリエーション」や「夏祭り」を行い、子どもも大人も共に楽しみな思い出深い時間を過ごしました。秋には、二十七年ぶりに復活した「なべっこ祭り」や、「全校校外学習」で、秋田の自然と伝承文化を縦割りグループで体験しました。そして冬には、卒業生から学ぶ「ようこそ先輩」で、夢に向かって力強く生きることの大切さを学びました。これらの行事や活動を通して、学校と家庭・地域との温かい絆が一層深まったことを実感しています。

最後の一年を大切に、笑顔いっぱいにお過ごした四十二名の「としまっ子」が、戸島小学校でのかけがえのない日々で学んだことや多くの人のつながりを胸に、輝く未来へ進んでいくことを心から願っています。



開校記念碑



土崎小学校  
伊藤 淳

秋田市教育委員会が小五から中三までを対象に実施している「秋田つ子・あい調査」の中に、「自分の住んでいる町内や地域が好きだ」という質問があります。本校五・六年生の肯定的回答は何と一〇〇%。「さすが土崎、さすが港つ子」です。



そんな地元愛あふれる子どもたちと一緒に現校舎で過ごす最後の一年間は、土崎南小との交流に加え、「校舎や地域に感謝の気持ちを示す活動プロジェクト」に力を入れてきました。五月の大運動会。

地元では「サバグチ」と称される綱引きや、土崎港曳山まつりで踊る「ドンドコドツケ」で盛り上がりました。十月の持久走記録会、各所の協力の下、昨年度に続き公道で実施し、沿道から多くの声援をいただきました。閉会式では保護者や地域の方も一緒に校歌斉唱。



旧校舎(S43撮影)

さらにその後は校内を開放して「校舎を懐かしむ会」を開催。来場者の感慨深い表情が印象的でした。そして十一月、本校の伝統である宵々祭と学習発表会を融合させた「統合宵よい祭」を開催しました。音頭上げ、ミニ曳山の運行、港ばやし、秋田音頭などの踊り、学団発表、全校児童の歌、全てに熱い思いが込められていました。ここでも締めは来場者全員の校歌斉唱。会場全体が大きな感動に包まれました。

さて、冒頭の調査には「大人になってからもふるさと秋田を大切にしたい」という質問もあります。こちらの肯定的回答も五年生が一〇〇%、六年生も九六%。やはり「さすが土崎、さすが港つ子」です。

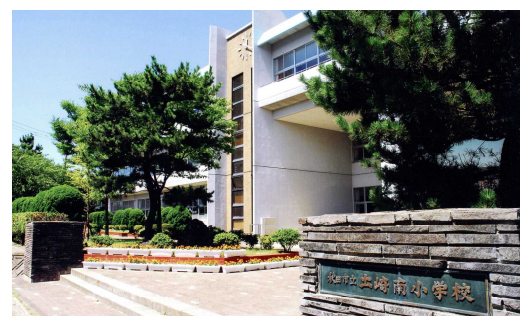
校舎が変わっても、ふるさと土崎への誇りと熱い思いは変わりません。統合後も港つ子は「港魂」を胸に、強く、そしてたくましく進んでいきます。



土崎南小学校  
嵯峨 俊明

土崎小学校と土崎南小学校では、来年度（令和八年度）に予定されている学校統合に向け、児童同士のつながりを深めることを目的とした交流会を実施してまいりました。

昨年度の交流会では、自己紹介や簡単なゲームを通して、互いの名前や趣味を知る時間をもちました。



初めは緊張の表情を見せていた児童もいましたが、活動が進むにつれ、笑顔で話しかける姿や「また会いたい」と前向きな声が聞かれるようになりました。

今年度は、交流の一環として、両校の五年生が合同で宿泊研修を行いました。初めて長時間を共に過ごす機会となりましたが、同じ班での活動や食事の準備、キャンプファイヤー、焼き板工作などを通して、児童同士が自然に声をかけ合い、協力する姿が多く見られました。

特に、共同の作業では、互いの意見を聞きながら役割を決め、助け合って取り組む姿が印象的でした。戸惑いを見せていた児童も、時間が経つにつれ笑顔が増え、「来年は最高学年として、お互いに協力してがんばる」という前向きな言葉が聞かれたことは大きな成果です。今回の宿泊研修は、単なる行事にとどまらず、新しい学校づくりへ踏み出す大切な一歩となりました。

これらの交流を通じて、児童一人ひとりが、「新しい学校を一緒につくる仲間」であるという意識を、少しずつ育んでいるように思います。子どもたちの中に、統合への不安よりも期待が広がりにあることを実感し、教職員一同大きな喜びを感じています。

これからも、児童が安心して学校生活を送れるように、丁寧に準備を進めてまいります。



# 交流のつばら



## 地区のこれからの子育て環境

加藤 俊悦

平成21年から築山地区社会福祉協議会の任を担っている。地区の民生児童委員や各町内会長（68町内）の方々とともに、福祉事業の推進に力を注いでいるところである。それぞれの役割を担う方々は極めて協力的で、敬老事業や健康づくり・生きがいづくり活動の推進、各種募金活動などを中心に、高齢者の見守り活動、福祉団体や子育て施設等への助成がおもな築山地区社協としての事業である。

令和5年7月の大雨災害で自宅が床上浸水を受け、本来の活動が無理で忸怩たる思いで自宅の大規模な復旧に追われたが、役員の多くの方々が福祉事業に停滞を来さないよう補完し合って難局を乗り越えてくれた。

ところで、これからの築山地区の子育て環境が大きく変わる見通しである。少子化の進行などによる中通小と築山小の統合、老朽化した秋田南中学校舎の改築に伴う「小中併設校」の開校である。やがて統合後の小学生は南通宮田の地で勉学に励むことになり、現在の築山小校舎は解体されて中学校の部活動敷地として生まれ変わる。また、現在の築山小に隣接する「秋田婦人ホーム（母子支援施設）」と「城南園（保育所）」の全面改築も控えている。「築山児童センター」の移設も含め、今後の動向にも目が向けられている。

なお、昨年10月に中通及び築山地区の福祉推進代表者による「市民と市長の意見交換会」が秋田市役所で開催され、そこで指定避難所の機能強化も大きな話題となった。避難住民の受け皿となる改築後の秋田南中体育館の空調設備の必要性についてである。

どのような学び舎に変わるのか、地区住民の思いや願いという視点からも、今後の動きに期待と注視をしていきたいものである。



## 第2の楽しい人生

濱田 純

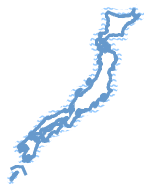
気づけば、全国を一人旅してきた。地図の中でまだ色を塗っていないのは、宮崎県・愛媛県・和歌山県の三つだけ。もう少しで「全国制覇」という響きに手が届く。若いころは仕事に追われ、旅など夢のまた夢だった。今は、自由な時間を抱えて、ゆっくりと風にまかせて歩ける。これが「第2の人生」なのだと思う。

旅に出るたびに、同じ日本でも土地ごとに空気が違うことに驚く。山の匂い、港町のざわめき、方言の柔らかさ。どこも懐かしく、どこも新しい。その中で、ひとときわ心に残っているのが鹿児島・知覧を訪ねた日のことだ。特攻隊員たちの手記に目を通したとき、胸の奥で静かに何かが鳴った。二十歳前後の青年たちが、国や家族を思いながら綴った言葉。その真つ直ぐさに涙がにじんだ。命を懸けて生きた人々がいたこの国に、自分も生かされている。その事実が、旅の中で深く刻まれた。

夜、宿の窓から見た星がひととき澄んでいた。知らない土地で見る星空は、まるで新しい自分を映しているようだった。

あと三県。旅の終わりが近づくほど、なぜか心は軽くなる。目的地よりも、道中の出会いや発見のほうが、いつも人生を豊かにしてくれるのだろう。

地図を眺めながら思う—— やっぱり、日本っていいなあ。



## 行ってきました研修会

十月二十五日（土）に横手市大森町の酒蔵「大納川」を訪ねてきました。令和元年より純米蔵へと転換し、全量瓶貯蔵を行う高品質で個性的な小仕込みの日本酒造りを行う酒蔵です。「一心を酔わす酒造り」のコンセプトによる酒造りが実を結び、全国新酒鑑評会にて、令和五・六年と二年連続で金賞を受賞しました。当日は、鈴木圭杜氏から蔵内を詳しくご案内いただきました。保呂羽山の伏流水を使用し、精米後の洗米や蒸し米の工程まで手作業を重視し、品質を追求しているとのことでした。



大山副会長の四ツ小屋小学校時代の教え子の佐藤好直さんが、杜氏として活躍されてきた。このことで参加者全員大いに盛り上がり



「酵母」を酒の醸造に使用し、豊かな香りを生み出し、純米蔵になることや、純米蔵になることを瓶貯蔵すること、搾りたてのフレッシュユな風味を維持して、いることなどの解説をしていただきました。また、酒蔵見学後の試飲は、また格別でした。



美味しいお酒が作られる過程を思い浮かべながら、二種類の「芽吹」と三種の「天花」、そして超辛口の六種類のお酒をじっくりと味わいました。杜氏のご説明のとおり、芳醇で果実のような華やかな香りと、きめ細やかな旨みを堪能できました。幸いな時間となりました。



そしてお楽しみみの試飲の時間です。たくさ試飲室には、おちよんが並んでいました。参加者が、それぞれ好きな器を選び、試飲の準備ができました。鈴木試飲に先立ち、鈴木杜氏から、本日試飲するお酒の説明がありました。大納川では、リンゴのような香りの酵母と洋梨のような香りの酵母の二種類の「蔵付き

### 新入会員紹介

よろしく願いいたします

菊地 篤



申し上げます。また、この度の入会にあたって、先輩の方々からお声掛けをいただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

現在、定年延長制度に伴い、秋田市内の中学校で教員生活を続けております。教員不足の影響や熊対応、生徒指導事案対応等、多忙な毎日ではありますが、そのような中で、目の前の子どもとしっかりと向き合い、学ぶ喜びを味わわせることが自分の役目であることを肝に銘じ、日々を過ごしております。

会員の皆様には今後もお世話になります。どうぞ、よろしく願いいたします。

### 令和八年度以降の会報について

秋田市退職校長会のHP（ホームページ）が開設されたことに伴い、これまでの紙媒体での広報とHPに掲載する形での広報をそれぞれ年1回ずつとすることになりました。

秋田市退職校長会では、七月の会報はHPに掲載する形で、三月の会報はこれまでどおり紙媒体で発行し、会員の皆様に郵送いたします。今後ともご愛読をどうぞよろしく願いいたします。

### 事務局から

#### 令和8年度 年間行事予定

##### 秋田市退職校長会

監査	令和8年4月16日（木）
理事会	4月25日（土）
総会	4月25日（土）
現職・退職校長会教育懇談会	11月21日（土）

#### 祝 叙勲等（敬称略）

瑞宝双光章（秋の叙勲）	R 7・11・3
伊藤 敬二	秋田市飯島
瑞宝双光章（高齢者叙勲）	R 8・1・1
新関 正廣	秋田市手形
瑞宝双光章（高齢者叙勲）	R 8・3・1
小野寺 勝也	秋田市河辺
全国連合退職校長会設立60周年	
功労者表彰	R 7・10・27
高橋 一郎	秋田市東通

#### 謹んでお悔やみ申し上げます

令和8年3月現在（敬称略）

檜森 治樹	R 7・3・30	逝去	秋田市手形
石山 輝夫	R 7・9・6	逝去	秋田市下北手
加々谷 佐紀子	R 7・12・7	逝去	秋田市東通
小川 博	R 8・2・8	逝去	秋田市檜山

#### 「楽しい研修会」のご案内

来年度も楽しい研修会をご案内しますので、多数のご参加をお待ちしております。

